

耐力壁の仕様について

筋かいの他、構造用合板や OSB の面材など、いろいろな仕様の耐力壁があります。



「筋かい計算してありますよ」という現場へ行って、筋かいなんてどこにも見当たらないことってあります。これは正しくは「耐力壁の壁量計算してありますよ」ですよね。発泡系断熱材が「スタ

イロ」と呼ばれているのと同じで、以前、耐力壁という筋かいだけだった名残から、面材の耐力壁も十把一絡げ（じっぱひとからげ）に言われてしまうのでしょうか。

それにしても、耐力壁の仕様って、とっても多くないですか？筋かいは分かるとしても、面材では構造用

合板の他、OSB やパーティクルボードがあったり、大臣認定が取れているものには、木質に限らず、新しい建材やガラスやプラスチックまであったりしますよね。

同じ面材でも、施工方法によっても違いがあるようで、一体どうなっているんですか～？



筋かいについての規制は、建築基準法の前身である「市街地建築物法」にも記載されていましたが、今のように床面積などに応じて壁量規定が定められたのは、1950 (S25) 年の建築基準法からです。その壁量についても、下のグラフのようにだんだん強化されています。これはご存知のように、地震などによる被害を教訓にしたものです。

木造軸組工法の耐力壁は、括りとして、以下の3つに分けられます。

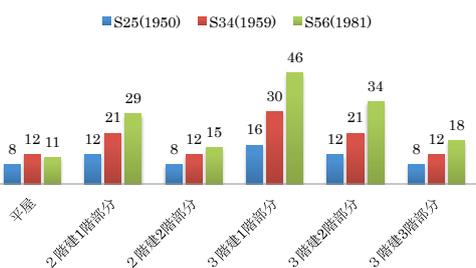
- ①建築基準法施行令第46条の筋かい
- ②建設省告示第1100号の面材
- ③大臣認定取得の耐力壁

仕様や施工方法もそれぞれ詳細に決められていますので注意が必要です。例えば、大壁仕様なのか真壁仕様なのか、床勝ちなのか壁勝ちなのかで、耐力が違いますし、受け材や釘の種類、ピッチ等によっても異なります。更に①や②の法令の仕様では、耐力壁を組合わせて壁倍率が最大5倍まで可能ですが、③の大臣認定

「木造耐力壁ジャパンカップ」ってご存知ですか？

<http://be-do-see.com/tairyokuhekiJC/> 実物大の耐力壁を組み立てて、どちらか一方の壁が破壊するまで押し合いへし合いをする耐力壁のお相撲です。1997年から始まり、施工性やデザイン、コストも評価され、勝者（勝壁！？）には優勝杯が贈られます。法的認定を取っていませんので、実際の建物にすぐに使用することは難しいのですが、ユニークな発想の耐力壁が誕生するのはとっても楽しみです。みんなガンバレ～♡

必要壁量の変遷【軽い屋根】



※数値は、地震に関する必要壁量の床面積に乗ずる係数です

による耐力壁の中には「他の耐力壁と組合わせてはならない」とか「面材を継いではならない」「1P(910mm等)しか使えない」などの条件が付いているものもあります。しっかり調べましょうね。



TEC branch は HP にて連載中です。
 答えてほしい疑問などをお寄せ下さい！
 今回は、大臣認定取得のエピソード

東昭エンジニアリング株式会社
 〒222-0033 横浜市港北区新横浜3-20-8 BENEX S-3ビル2階
 TEL: 045-534-7500 FAX: 045-534-7501
 URL: <http://www.tosho-engineering.co.jp>

